OLYMPUS

# μ[mju:]-III 120

# JP 使用説明書

・ご使用前にこの使用説明書をお読みください。
・大切な写真（海外旅行など）をお撮りになる前には、試し撮りすることをおすすめします。

---

OLYMPUS

オリンパス株式会社

〒163-0914　東京都新宿区西新宿2丁目3番1号　新宿モノリス

## 製品に関するお問い合わせ先

フリーダイヤル
**0120-084215**

携帯電話・PHSからは
**0426-42-7499**

FAXからは　0426-42-7486

◎ オリンパスカスタマーサポートセンター ◎

営業時間　平　日　9：30〜21：00
土・日・祝日　10：00〜18：00
（年末年始、システムメンテナンス日を除く）

## 修理に関するお問い合わせ、修理品ご送付先

〈TEL〉 0266-26-0330　〈FAX〉 0266-26-2011

〒394-0083　長野県岡谷市長地柴宮3-15-1
**オリンパス岡谷修理センター**
営業時間　9：00〜17：00
（土・日・祝日及び弊社休日を除く）

CS1174000000－②　A0803

# 安全に正しくお使いいただくために



このたびは、μ〔mju:〕-Ⅲ 120をお買い上げいただき、ありがとうございます。

・ご使用前にこの使用説明書を良くお読みのうえ、正しく安全にお使いください。またお読みになった後は、いつでも見られるように必ずお手元に保管してください。

・この製品は写真撮影のためのものです。撮影以外の目的に使用しないでください。

・安全に関する重要事項は、以下の表示と文章で示されます。あなたと他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、必ず守ってください。

表示の意味は、次のようになっています。

| | |
|---|---|
| ⚠警告 | この表示は、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。 |
| ⚠注意 | この表示は、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。 |
| ⊘ | この記号は禁止(してはいけないこと)を示します。図または文章で具体的な禁止内容を示します。 |
| ❗ | この記号、または絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容を表しています。❗の中の絵表示や文章で具体的な強制内容を示します。 |

## ⚠警告 電池について

⊘ この製品で指定されていない電池を使わないでください。

⊘ 充電できないアルカリ電池、リチウム電池などを充電しないでください。

⊘ 火の中への投入、加熱、⊕と⊖極間のショート、分解をしないでください。

⊘ 電池の極性(⊕と⊖)を逆に入れないでください。
電池は液漏れ、発熱、発火、破裂する恐れがあります。

⊘ 電池は幼児・子供の手の届くところに置かないでください。
電池は幼児・子供が飲み込む恐れがあります。
万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。
・表面の被覆の破れた電池を使わないでください。
・長期間使用しない時は、必ず電池を取り出して保管してください。
・一般廃棄物として各自治体の指示に従って処理してください。

## ⚠警告 本機について

❗ 万一、使用中に変な音、熱い、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、
①火傷に注意しながら速やかに電池を抜いてください。
②お買い上げ店またはオリンパス岡谷修理センターへ修理に出してください。
放置すると火災や火傷の原因となります。

❗ 落下や損傷により内部が露出したら、
①露出した内部に絶対触れないでください。
②感電、火傷、ケガに注意し、直ちに電池を抜いてください。
③お買い上げ店またはオリンパス岡谷修理センターへ修理に出してください。
内部高電圧回路による感電、ケガ、火傷の恐れがあります。

⊘ 分解、修理、改造をしないでください。
内部高電圧回路による感電やケガの恐れがあります。

❗ 水に落としたり、内部に水、金属、燃えやすい異物が入ったら、
①速やかに電池を抜いてください。
②お買い上げ店またはオリンパス岡谷修理センターへ修理に出してください。
そのまま使用すると火災や感電の危険があります。

⊘ 引火性ガスや物質(ガソリン、ベンジン、シンナー等)の近くで使用しないでください。
爆発や火災、火傷の原因となります。

⊘ ファインダーを通して太陽や強い光源を見ないでください。
失明の恐れがあります。

## 警告　フラッシュ

⊘ フラッシュ発光部に皮膚や物を密着させて発光しないでください。
またフラッシュ連続発光後、フラッシュ部分に触れないでください。
熱くなる場合があります。

**注意**

⊘ フラッシュ光により短時間視界が妨げられることがあります。たとえば、下記の様なことはしないでください。
例：①フラッシュを人や動物の目の前で発光
②フラッシュを運転者に向けて発光
・本機は暗い時には自動的にフラッシュが発光しますのでご注意ください。

## 警告　その他

⊘ この製品を幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
また幼児、子供の近くで使用する時は、細心の注意を払い、不用意に製品から離れないでください。幼児、子供には安全警告・注意の内容が理解できませんし、加えて以下のような事故の恐れがあります。
例：①誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こすことがあります。
②操作を誤りケガや感電事故等を起こすことがあります。

⊘ カメラを操作しながら、他のことをしないでください。
例：車両の運転、ファインダーを覗きながらの移動など。

# 主な特長



◎38mm〜120mmの約3.2倍ズームレンズ。

◎画面内の最大11点で測距するマルチワイドオートフォーカスの採用で、被写体が中央になくてもピントが合いやすくなりました。

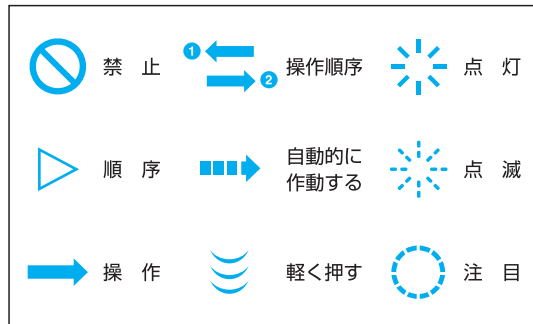
◎蛍光灯の色かぶりを防ぐ為フラッシュが自動的に発光します。

◎生活防水だから突然の雨にも安心。

◎リモコン撮影が楽しめます。

◎3ウェイAE
3種類のセンサーを使用し、撮影シーンに最適な露出制御を行います。

◎手ぶれ警告モード
手ぶれによる画像のぶれを、撮影前に警告表示させることができます。

**この使用説明書には以下のような記号が使われています。**

・説明文中の　　　内の注意事項には、特に気を付けてお読みください。
・本文中のイラストは、実際の製品と異なる場合があります。

# 目　次



## 撮影の準備をしましょう　8



## 撮影しましょう　17



## さまざまな機能を使ってみましょう　28



## その他　47

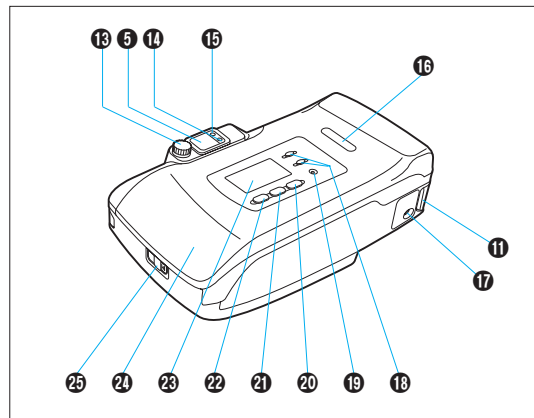
# 各部の名称【本　体】





☆部は汚さないようご注意ください。
（☆部の汚れはピンボケや不鮮明な写真の原因になります。やわらかい布でよくふき取ってください。）

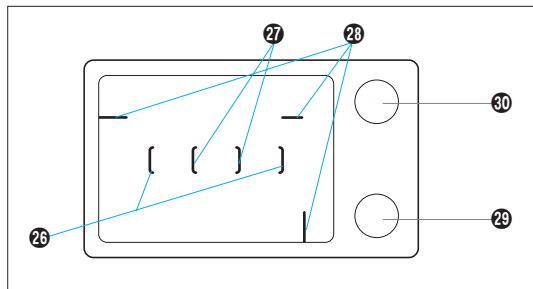
❶ ズームレバー（P.22）
- T側へ押すと望遠側にW側へ押すと広角側にレンズがズームします。

❷ シャッターボタン（P.19）
❸ セルフ／リモコンシグナル（P.39）
❹ AE測光部☆
❺ ファインダー（P.10）
❻ AF測距部☆
❼ フラッシュ☆
❽ レンズ☆
❾ リモコン受光部（P.40）
❿ レンズバリア（P.22）
⓫ 電池ぶた（P.17）
⓬ ストラップ取り付け部（P.12）

⓭ 視度調節ダイヤル（P.13）
⓮ 緑ランプ（P.23）
⓯ オレンジランプ（P.29）
⓰ フィルム確認窓（P.21）
⓱ 三脚穴
- 三脚を取り付けるネジ部です。

⓲ 日付（クオーツデート）操作ボタン（P.44・45）
⓳ 途中巻き戻しボタン（P.27）
⑳ 撮影モードボタン（P.35）
㉑ フラッシュモードボタン（P.28）
㉒ セルフ／リモコンボタン（P.38）
- 手ぶれ警告モードもこのボタンでセットします。

㉓ 液晶パネル（P.11）
- カメラの操作状態やモードを表示します。

㉔ 裏ぶた
㉕ 裏ぶた開放ノブ（P.20）

# 各部の名称【ファインダーの表示】



㉖ オートフォーカスマーク（P.23）
・ピントを合わせたい被写体に合わせます。

㉗ スポットマーク（P.36）
・スポットモード時は、このマークをピント・露出を合わせたい被写体に合わせます。

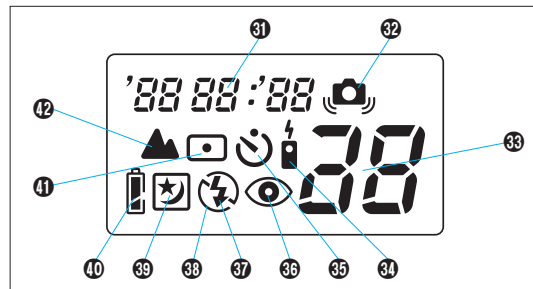
㉘ 近距離補正マーク（P.25）
・近くのものを撮る時はこのマーク内が撮影範囲になります。

㉙ 緑ランプ（P.23）

| 点　灯 | 撮影できます | ピントが合っています。シャッターボタンを押し切ればシャッターが切れます。 |
|---|---|---|
| 点　滅 | 撮影できません | 被写体が近すぎるためピントが合っていません。シャッターボタンを押し切ってもシャッターは切れません。 |
| 早い点滅 | 撮影できますが注意してください | オートフォーカスの苦手な被写体です。**シャッターは切れますが、ピントが合っていないことがあります。** |

㉚ オレンジランプ（P.29）

| 消　灯 | ※撮影できます | フラッシュは光らずにシャッターが切れます。 |
|---|---|---|
| 点　灯 | ※撮影できます | フラッシュが光りシャッターが切れます。 |
| 点　滅 | 撮影できません | フラッシュ充電中です。<br>シャッターは切れません。 |

※緑ランプが点滅している時は撮影できません。
※緑ランプ／オレンジランプの点滅表示
・フラッシュを押さえた時（P.22）、手ぶれ警告表示（P.41）

# 各部の名称【液晶パネルの表示】





㉛ 日付（クォーツデート）（P.44・45）
㉜ 手ぶれ警告（P.41）
㉝ フィルムコマ数（P.21）
㉞ リモコン（P.40）
㉟ セルフタイマー（P.39）
㊱ 赤目軽減発光（P.30）
㊲ 強制発光（P.32）
㊳ 発光停止（P.31）
㊴ 夜景（P.33）
㊵ 電池残量（P.17）
㊶ スポット（P.36）
㊷ 遠景（P.37）

※説明のために、全ての表示を点灯させた状態です。

## ストラップの取りつけ方

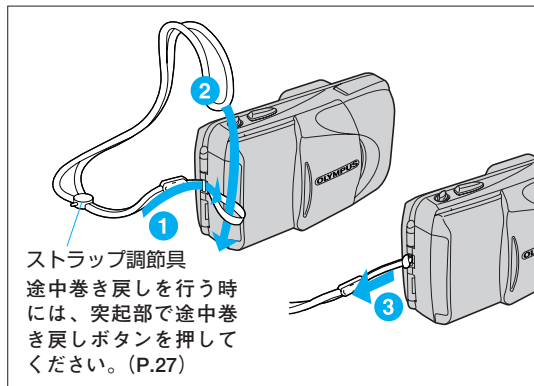
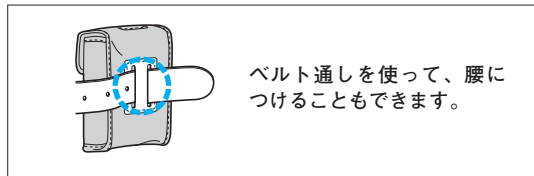
途中巻き戻しを行う時には、突起部で途中巻き戻しボタンを押してください。（P.27）

## ソフトケース

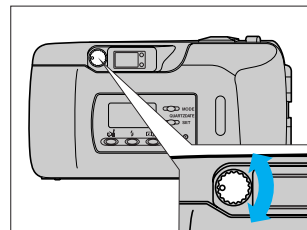
ベルト通しを使って、腰につけることもできます。

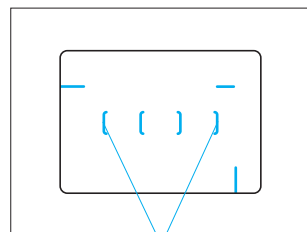
## リモコンの収納

リモコンは必ず図の向きにして入れてください。

※ソフトケースの内側・側面にリモコン収納袋があります。（P.42）


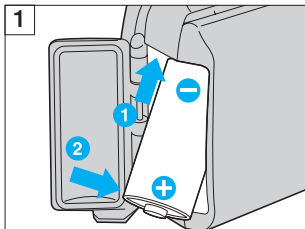
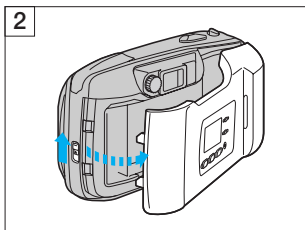
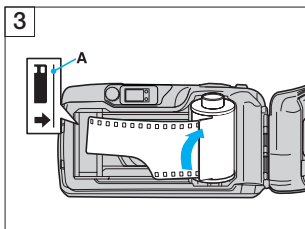


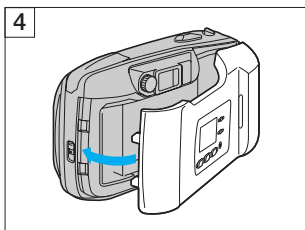
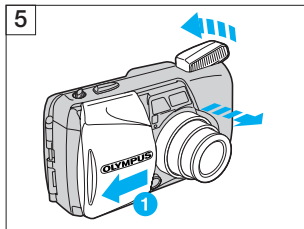
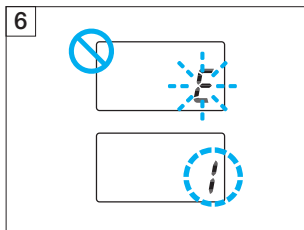
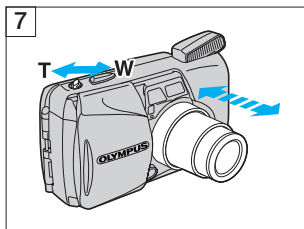
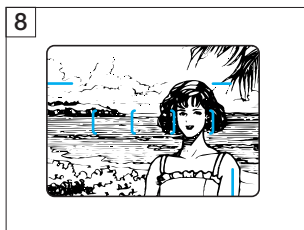
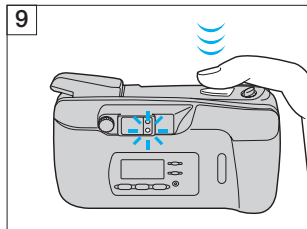
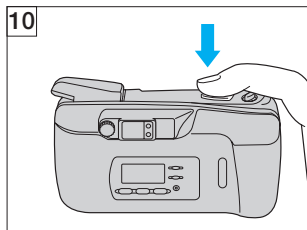
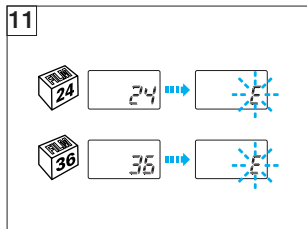
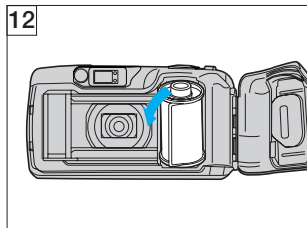

## 撮影する人の視度に合わせることができ、ファインダーが見やすくなります。

レンズバリアを開けてファインダーをのぞき、ファインダーの視度を合わせてください。

・視度調整は写る写真のピントには影響ありません。

オートフォーカスマーク

ファインダーをのぞきながら視度調節ダイヤルを動かし、オートフォーカスマークが鮮明に見えるようにします。

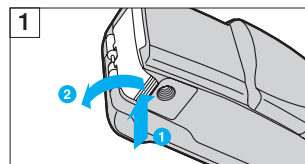
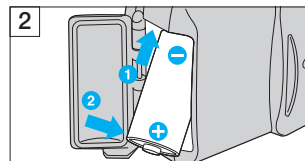
右回し 遠視用補正方向
左回し 近視用補正方向

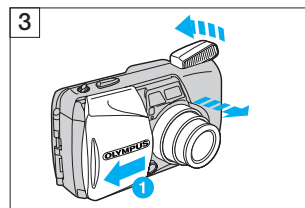
# 使い方早わかり【通常の撮影手順】

電池を入れます。（P.17）

裏ぶたを開けます。（P.20）

フィルムを入れます。（P.20）

- フィルム先端を指標（A）に合わせます。
- ISO400のフィルムをおすすめします。
- フィルムが浮かないよう注意してください。

裏ぶたを閉じると自動的に1コマ目まで巻き上がります。（P.21）

レンズバリアを「カチッ」と音がするまで開きます。（P.21）

コマ数表示が「1」になっている事を確認します。（P.21）

ズームレバーを操作して構図を決めます。（P.22）

撮りたいものにオートフォーカスマークを合わせます。（P.23）

9 シャッターボタンを軽く押し緑ランプの点灯を確認します。（P.23）

10 シャッターボタンを押し切って撮影します。（P.24）

11 フィルムが終わると自動的に巻き戻ります。（P.27）

12 裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。（P.27）

# 電池を入れて、チェックします

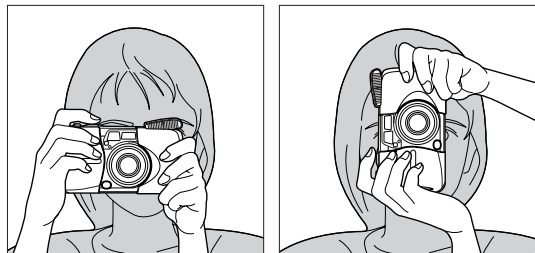


電池は3Vリチウム電池（CR123AまたはDL123A）1本を使用します。

1 ①電池ぶたの下側を押しながら、
②矢印の方向に開けます。
・電池を入れる時はレンズバリアを閉じた状態で行ってください。

2 電池の向きを正しく合わせて入れ、電池ぶたを閉めます。

フィルム約15本分の撮影ができます。（P.51）

3 ①レンズバリアを「カチッ」と音がするまで開きます。
②液晶パネルで電池残量をチェックします。

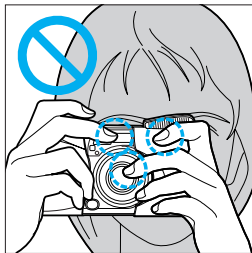
| 電池残量表示の状態 | 意　味 |
|---|---|
| が点灯。（自動的に消えます） | 電池の容量は十分です。撮影できます。 |
| が点滅し、液晶パネルの他の表示は通常通り点灯。 | 電池の容量が少なくなりました。新しい電池と交換してください。 |
| が点滅し、液晶パネルの他の表示は消灯。 | 電池の容量がなくなりました。新しい電池と交換してください。 |

・電池に関するご注意をお読みください。（P.47）
・長期旅行や、寒冷地などの撮影には予備の電池をご用意ください。
・電池を交換した後は日付合わせを行ってください。（P.44）

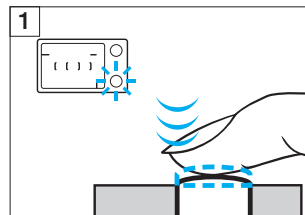
＜正しい構え方＞

よこ位置

たて位置

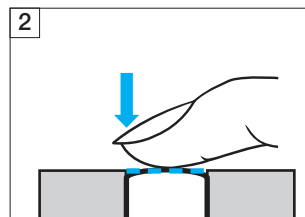
・両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。
・たて位置の時は、フラッシュが上になるようにすると、影が自然な方向に出ます。

＜悪い例＞

・レンズ、鏡筒部を持たないようにしてください。
・レンズ、AE測光部、AF測距部フラッシュなどに指やストラップがかからないようにご注意ください。
・焦点距離が長くなるほどカメラぶれが起こりやすくなります。脇をしめるなど正しく構えてカメラぶれを防ぎましょう。

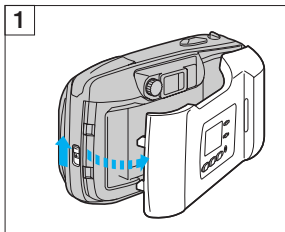
シャッターボタンは2段階に作動します。
フィルムを入れる前に練習しましょう。

1

軽く押します（半押し）。
・ピントと露出が固定されます。

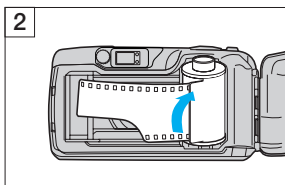
確認
・ファインダー横の緑ランプが表示されます。（P.23）

2

そのままシャッターボタンを押し切るとシャッターが切れます。

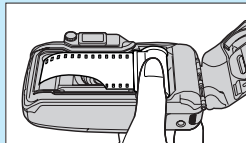
・シャッターボタンは静かに押してください。
・シャッターボタンを押す時にカメラがぶれると写真がボケる原因となります。

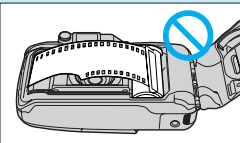
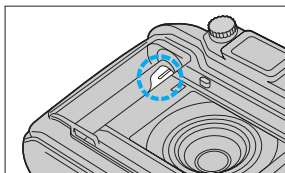
# フィルムを入れます



裏ぶた開放ノブを押し上げます。
・裏ぶたが開きます。

レンズなどカメラ内部に触れないように注意してください。レンズにゴミがついていたら、ブロアーブラシなどで取り除いてください。

フィルムを浮かないように押さえます。

ISO400のフィルムをおすすめします。DXコード付フィルム以外を使う場合はISO100のフィルムをご使用ください。

<良い例>

フィルムの出口を軽く押さえてフィルムをセットしてください。

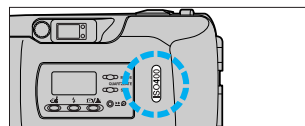
<悪い例>

フィルムの出口が浮いていると、うまく巻き上がらなかったり、写した写真に支障をきたすことがあります。

巻き取り軸のところのフィルム状のものには手を触れないでください。

①フィルムの先端を指標（A）の位置に合わせます。
②裏ぶたを閉じます。
自動的にフィルムが１コマ目まで巻き上がります。
・裏ぶたは「カチッ」と音がするまで閉めてください。
・裏ぶた開放ノブが下まで戻っていることを確認してください。

フィルムガイド（B）の間にフィルムが正しく位置していることを確認して裏ぶたを閉じてください。

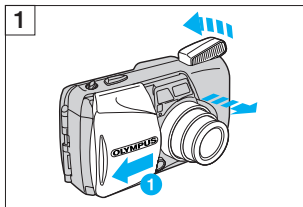
①レンズバリアを「カチッ」と音がするまで開きます。
②液晶パネルのコマ数表示を確認します。

**確認**
・コマ数表示が「1」になっていることを確認します。

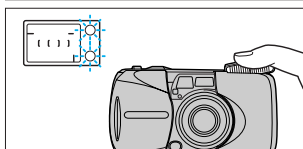
「E」が点滅している時はフィルムが正しく巻き上げられなかった状態です。裏ぶたを開けてもう一度フィルムを入れ直してください。

フィルム確認窓
・使用中のフィルムの種類が確認できます。


撮影しましょう

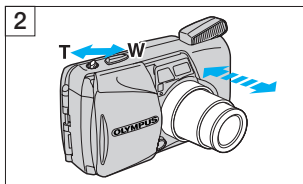
# 写します

**1**

レンズバリア①を「カチッ」と音がするまで開きます。

**確認**

・レンズが繰り出されます。
・フラッシュがポップアップします。
・液晶表示が点灯します。

フラッシュを押さえると、ファインダー横の2つのランプが点滅し、撮影できません。

・フラッシュから指を離せば撮影できます。

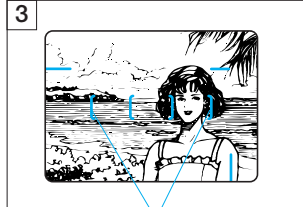
**2**

ファインダーをのぞきながらズームレバーをTまたはWの方向に押して構図を決めます。

約4分30秒間何も操作しないと、自動的にレンズはWIDE(38mm)に戻り、液晶パネル表示が消えます。再び表示させるには、レンズバリアを一度閉じてから再び開けるか、ズームレバーを操作してください。

## ズームレバーの使い方

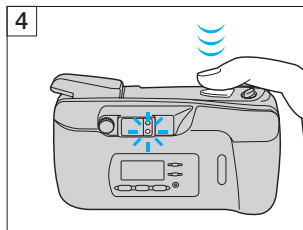
T(TELE：望遠)
より大きく写ります(120mmまでズーム)

W(WIDE：広角)
より広い範囲が写ります(38mmまでズーム)

**3**

オートフォーカスマーク

撮りたい被写体にオートフォーカスマークを合わせます。

⚠ファインダーを通して太陽や強い光源を直接見ないでください。失明の恐れがあります。

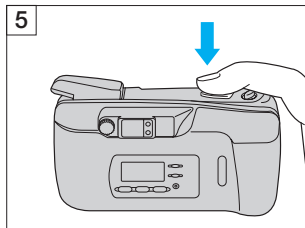
**4**

シャッターボタンを軽く押し、緑ランプとオレンジランプの表示を確認します。

・緑ランプが点灯していれば撮影できます。
・この時、被写体のピントと露出を合わせます。
・オートフォーカスの精度を向上させるため、フラッシュが細かく数回光ることがあります。(AF補助光)

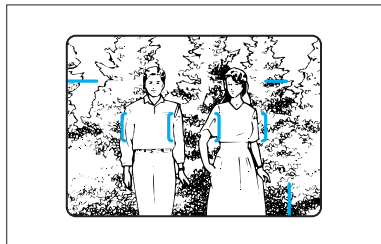
### 緑ランプの表示

| | | |
|---|---|---|
| 点　灯 | 撮影できます | ピントが合っています。シャッターボタンを押し切ればシャッターが切れます。 |
| 点　滅 | 撮影できません | 被写体が近すぎるためピントが合っていません。シャッターボタンを押し切ってもシャッターは切れません。 |
| 早い点滅 | 撮影できますが注意してください | オートフォーカスの苦手な被写体です。シャッターは切れますが、ピントが合っていないことがあります。 |

・オレンジランプの表示はフラッシュの状態を表示しています。(P.29)

撮影しましょう

そのままシャッターボタンを押し切ります。

・シャッターが切れ撮影完了です。
・自動的にフィルムが巻き上がり、フィルムコマ数表示が1コマ進みます。

## 11点マルチワイドオートフォーカス

このカメラは11点マルチワイドオートフォーカスシステムの採用により、被写体が画面中心にない構図でもピントが合いやすくなりました。

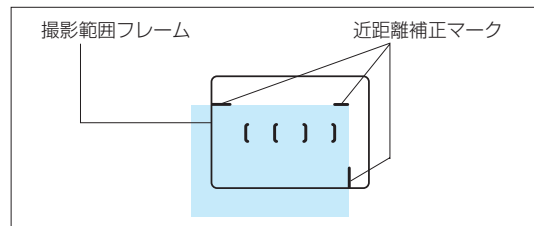




## 撮影距離範囲

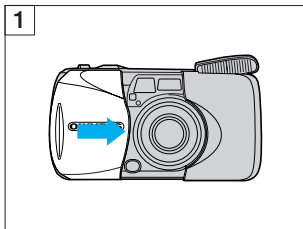
撮影は被写体への距離が0.6m〜∞（無限遠）の範囲で行ってください。

・0.6mより近い距離では緑ランプが点滅し、シャッターは切れません。（P.23）
ただし極端に近い距離ではシャッターが切れますが、ピントは合いません。
・ピントはオートフォーカス（AF）により自動的に合いますが、条件によりオートフォーカス（AF）の苦手な被写体もあります。（P.46）

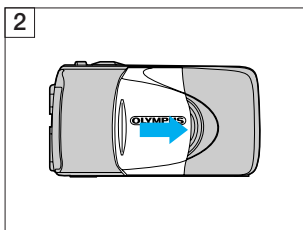
## 近距離補正

0.6mの時の撮影範囲

撮影範囲フレームは∞（無限遠）時に写る範囲ですが、撮りたいものまでの距離が近づくにつれて写る範囲が左下に移動します。
0.6mの時は近距離補正マーク内（青の範囲）が実際に写る範囲となります。（撮影範囲フレームの外側は見えません。）

撮影しましょう

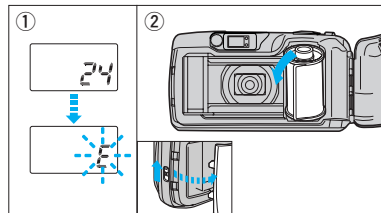
1

レンズバリアを軽く矢印方向へスライドします。
・自動的にレンズが収納されます。
・液晶パネル表示が消えます。

レンズ作動中はレンズバリアをレンズ枠に押し当てないようにしてください。故障の原因となります。

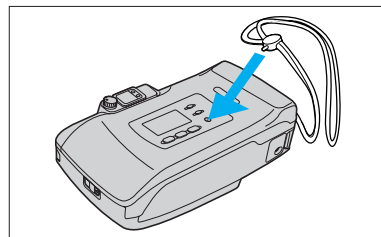
2

レンズが収納されたらレンズバリアを完全に閉めます。





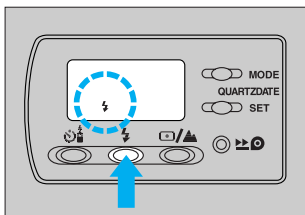
フィルムが終わると自動的に巻き戻しを開始します。

①作動音が止まり「 E 」の点滅表示になったことを確認します。
②裏ぶたを開けてフィルムを取り出します。

・巻き戻し中はフィルムコマ数表示が減っていきます。
・フィルム規定枚数より多く撮れて終わることがありますが最後に撮影したコマがプリントされないことがあります。

## 途中巻き戻し

途中で巻き戻す時は、ストラップ調節具の突起部で途中巻き戻しボタンを軽く押してください。

他のもので押さないでください。故障の原因となります。

このカメラには6つのフラッシュモードがあります。撮影状況・目的に合わせてお使いください。

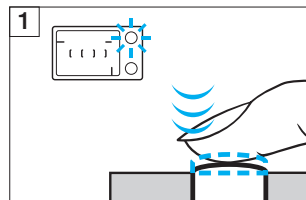
### モードの切り替え方

レンズバリアを開き、フラッシュモードボタン（⚡）を押すごとに、下表の順に切り替わります。フラッシュモードは液晶パネルに表示されます。

### フラッシュ撮影モードの種類

| 表　示 | モード | 機能・用途 |
|---|---|---|
| 表示なし | オート発光 | 暗い時、逆光の時、蛍光灯下で自動的に発光します。(P.29) |
| 👁 | 赤目軽減発光 | 目が赤く写る現象を軽減します。(P.30) |
| ⚡(発光停止) | 発光停止 | フラッシュを発光させたくない時に。(P.31) |
| ⚡ | 強制発光 | 必ず発光させたい時に。(P.32) |
| ☆(夜景) | 夜　　景 | 夜景をバックに人物を撮る時に。(P.33) |
| ☆(夜景)👁 | 赤目軽減夜景 | 夜景をバックに人物の赤目を軽減したい時に。(P.34) |

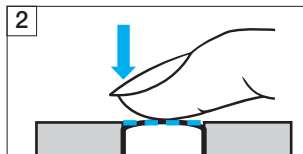
・オート発光モードと👁、☆、☆👁モード時には、近くの被写体も白く飛ばないように近接ソフトフラッシュになっています。

⚠ 注意　人や動物の目に近づけてフラッシュを発光させないでください。一時的に視力に影響を与える恐れがあります。

暗い時、逆光の時、蛍光灯下でフラッシュが自動的に発光します。

1 シャッターボタンを軽く押し、オレンジランプを確認します。

### オレンジランプの表示

| | | |
|---|---|---|
| 消　灯 | 撮影できます | フラッシュは光らずにシャッターが切れます。 |
| 点　灯 | 撮影できます | フラッシュが光りシャッターが切れます。 |
| 点　滅 | 撮影できません | フラッシュ充電中です。<br>シャッターは切れません。 |

・オレンジランプが点滅している時は、一旦シャッターボタンから指を離し、数秒待ってからもう1度確認してください。
・緑ランプが点滅している時は、シャッターは切れません。

2 シャッターボタンを押し切ります。

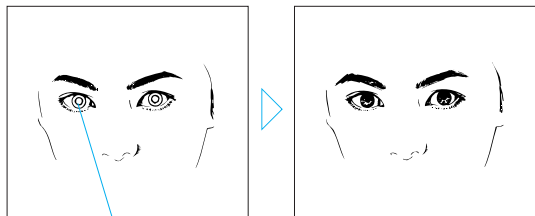
### フラッシュ撮影可能範囲（ネガカラーフィルム使用時）

| ISO | W(広角) | T(望遠) |
|---|---|---|
| 100 | 0.6〜4.5m | 0.6〜2.0m |
| 200 | 0.6〜6.3m | 0.6〜2.8m |
| 400 | 0.6〜9.0m | 0.6〜4.0m |
| 800 | 0.6〜12.6m | 0.6〜5.6m |

・リバーサルフィルム使用時の遠距離側撮影可能範囲は各々の60％程度となります。


さまざまな機能を使ってみましょう

## 【赤目軽減発光モード】

暗い場所で人物を撮影した時に目が赤く写る現象を軽減します。本発光前に10数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。予備発光をする以外はオート発光と同じです。

目が赤く写ります

・シャッターが切れるまで約1秒かかりますので、カメラをしっかり構えてください。
　この間カメラを動かしたり写される人が動かないように注意してください。写される人に予備発光を説明し、目を閉じないようにしてください。

・以下の場合、赤目軽減の効果が現れにくくなります。
　1.フラッシュを正面から見ていない
　2.予備発光を見ていない
　3.被写体までの距離が遠い場合
　また、個人差によっても赤目軽減の効果が異なります。



## 【発光停止モード】

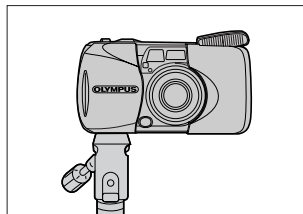


暗いところでも発光させたくない時に使います。
このモードでは暗くてもフラッシュは光りません。
フラッシュを使えない美術館や夕景、夜景などで撮影する時に使います。

レンズバリアを閉めるとオート発光モードに戻ります。

・シャッタースピードが最長2秒まで延長されます。
　カメラぶれを防ぐため三脚をご使用ください。
・動く被写体はぶれて写ることがあります。写される人がシャッター作動中に動かないように注意してください。

三脚などでカメラを固定してください。

さまざまな機能を使ってみましょう

## 【強制発光モード】

必ず発光させたい時に使います。
強制発光モードはフラッシュを常に発光させるモードです。木かげなどで顔にかかった影をやわらげる時や、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影の時などに使います。

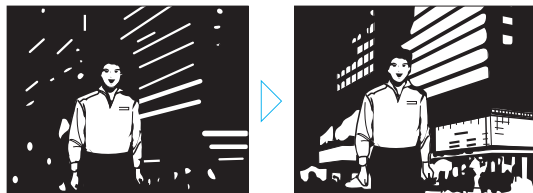
レンズバリアを閉めるとオート発光モードに戻ります。

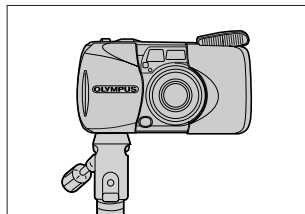
・フラッシュ撮影可能範囲(P.29)内で撮影してください。
非常に明るい場所では効果があらわれにくくなります。

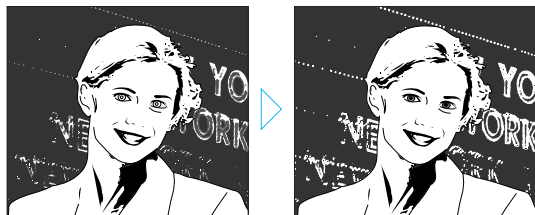


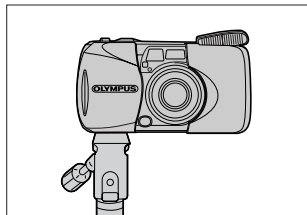
## 【夜景モード】

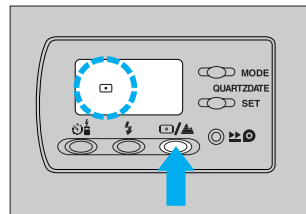


夜景をバックに人物を撮る場合に人物はフラッシュ光、背景はシャッタースピードの延長により、人物も夜景も鮮やかに写せます。

レンズバリアを閉めるとオート発光モードに戻ります。

・シャッタースピードが最長4秒まで延長されます。
カメラぶれを防ぐため三脚などに固定して撮影することをおすすめします。
・動く被写体はぶれて写ることがあります。写される人がシャッター作動中に動かないように注意してください。
・夜景モードはスポットモードとの併用はできません。

三脚などでカメラを固定してください。

夜景をバックに人物を撮る場合に、目が赤く写る現象を軽減します。本発光の前に10数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。予備発光をする以外は夜景モードと同じです。

レンズバリアを閉めると赤目軽減発光モードに戻ります。

・赤目軽減発光モードの　（P.30）もお読みください。
・シャッタースピードが最長4秒まで延長されます。カメラぶれを防ぐため三脚などに固定して撮影することをおすすめします。
・動く被写体はぶれて写ることがあります。写される人がシャッター作動中に動かないように注意してください。
・赤目軽減夜景モードはスポットモードとの併用はできません。

三脚などでカメラを固定してください。

被写体に応じた撮影が簡単にできる3つのモードが選べます。

**モードの切り替え方**

レンズバリアを開き、撮影モードボタン（/）を押します。
・押すごとに下表の順に切り替わります。撮影モードは液晶パネルに表示されます。

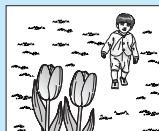
**撮影モードの種類**

| 表　示 | モード | 撮影・用途 |
|---|---|---|
| 表示なし | オート | 通常はこのモード でご使用ください。 |
| （スポット表示） | スポット | 撮りたいものに確実にピントと露出を合わせたい時に。（P.36） |
| （遠景表示） | 遠　景 | 窓ガラス越しの風景の撮影などに。（P.37） |


さまざまな機能を使ってみましょう

# 【スポットモード】

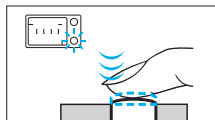
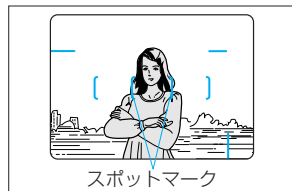
**撮りたいものに確実にピントと露出を合わせたい時に使います。**

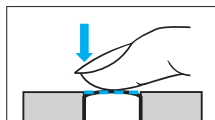
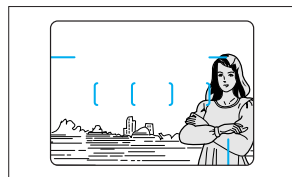
次のような場合には、オートモードではピントや露出が合わないことがありますのでスポットモード撮影をおすすめします。

撮りたいものの手前に別なものがある場合

撮りたいものが画面の端にある場合

撮りたいものより、背景が明るい場合（逆光）

## スポットモード撮影のしかた

①撮りたい被写体にスポットマークを合わせシャッターボタンを軽く押します。

緑ランプが点灯しスポットマーク部にピントと露出が固定されます。

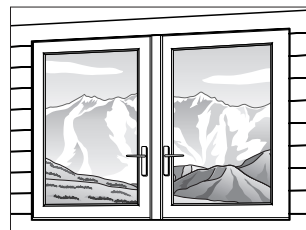
②軽く押したまま、撮りたい構図に戻して押し切ります。

このようにして、撮りたいものにピントと露出を合わせることができます。

レンズバリアを閉めるとオートモードに戻ります。



# 【遠景モード】



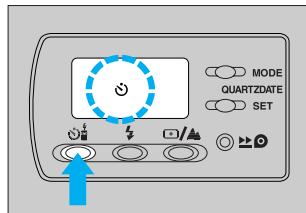
**窓ガラス越しの風景、遠方の山や雲の撮影時などに使います。ピントは遠方位置にセットされます。**

・遠景の風景撮影に使用してください。人物撮影には適しません。

**使用するフラッシュモードにより次のように作動します**

| フラッシュモード | 作動 |
| --- | --- |
| オート発光<br>赤目軽減発光<br>発光停止 | ・フラッシュは光りません。<br>・シャッタースピードは最長2秒まで延長されます。 |
| 強制発光 | ・フラッシュが光ります。 |
| 夜景<br>赤目軽減夜景 | ・フラッシュは光りません。<br>・シャッタースピードは最長4秒まで延長されます。 |

・カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。

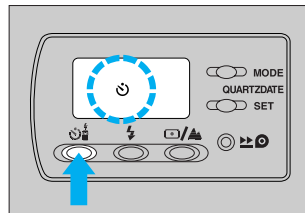
レンズバリアを閉めるとオートモードに戻ります。

さまざまな機能を使ってみましょう

## モードの切り替え方

レンズバリアを開き、セルフ／リモコンボタン（⏲／リモコン）を押すごとに下表の順に切り替わります。モードは液晶パネルに表示されます。

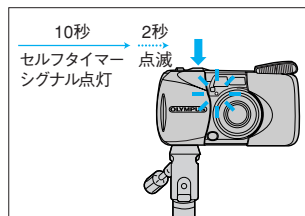
### セルフタイマー／リモコン／手ぶれ警告モード撮影の種類

| 表　示 | モード | 撮影・用途 |
|---|---|---|
| 表示なし | ―――― | 通常はこのモードでご使用ください。 |
| ⏲ | セルフタイマー撮影（P.39） | 全員での記念撮影に。 |
| リモコン | リモコン撮影（P.40） | 離れた位置から撮影できます。 |
| 手ぶれ | 手ぶれ警告モード撮影（P.41） | 手ぶれに注意しながら撮影したい時に。 |

・セルフタイマー、リモコン撮影ではカメラを三脚などでしっかり固定してください。




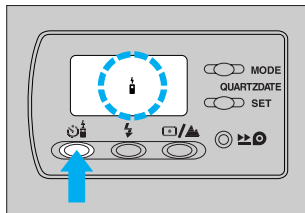

液晶パネルに⏲が表示するまで、セルフ／リモコンボタン（⏲／リモコン）を押します。

・⏲表示後、約10分間何の操作もしないと自動的にレンズはW端（38mm）になり、液晶パネル表示が消えます。この時は一度レンズバリアを閉め、再び開けてからセットし直してください。

撮りたいものにカメラを向け、シャッターボタンを押します。

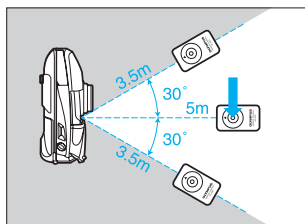
・約12秒後にシャッターが切れます。

**確認**

・カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。正しいピント・露出が得られません。
・撮影後、セルフタイマーモードは解除されます。
・作動中のセルフタイマーを途中で中止したい時はセルフ／リモコンボタン（⏲／リモコン）を再度押してください。

## 【リモコン撮影】

液晶パネルにが表示するまで、
セルフ／リモコンボタン（／）を押します。

・撮影終了後はセルフ／リモコンボタン（／）を押してセルフ／リモコンモードを解除してください。

・表示後、約10分間何の操作もしないと自動的にレンズはW端（38mm）になり、液晶パネル表示が消えます。また、リモコンは作動しなくなります。この時は一度レンズバリアを閉め、再び開けてからセットし直してください。

リモコンをカメラに向け、ボタンを押します。
・セルフ／リモコンシグナルが点滅し約3秒後にシャッターが切れます。

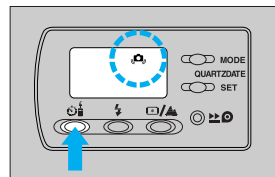
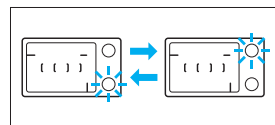
・左図の範囲内でご使用ください。
・太陽光など明るい環境ではリモコンの到達距離が短かくなる場合があります。
・ピントはカメラ正面のものに合います。

・逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。
その場合はセルフタイマーをご利用ください。
・インバーター式蛍光灯が近くにあるとリモコン撮影ができないことがあります。
・リモコン（RC-300C）に関するご注意もお読みください。（P.42）



## 【手ぶれ警告モード撮影】

次のような被写体を撮影する場合はシャッタースピードが長くなり手ぶれが起こりやすくなります。このモードを使うと手ぶれを撮影前に警告表示させ、また手ぶれの大きい時には写真のぶれを約半分に抑えることができます。

・夜明け前、夕方時の遠景を撮影する時
・低感度のフィルムを使用している時
・三脚を使用せずにレンズをT（望遠）側で撮影する時

液晶パネルにが表示するまで、
セルフ／リモコンボタン（／）を押します。

### 手ぶれ警告表示

カメラを構えた時に緑ランプ／オレンジランプが交互に点滅している時は手ぶれ写真が起こりやすい状態です。

・カメラをしっかり構えてランプが消えてからシャッターを切ってください。
・点滅状態でもシャッターを切ることができます。手ぶれが大きい時にはシャッタースピードが通常モードより1段高速になりますので手ぶれを約半分に軽減させる効果があります。

・暗い場所での発光停止モード、夜景モード、赤目軽減夜景モードでは三脚などに固定して撮影することをおすすめします。
・シャッタースピードの長い撮影では効果が少なくなります。
・動いている被写体の撮影には適しません。被写体が動いている場合には手ぶれが小さい時でも表示が出ます。
・**手ぶれ警告表示が出ていない時でも撮影のしかたにより手ぶれが発生することがあります。**
・シャッタースピードが短くなるため露出が不足気味になることがあります。
・リバーサルフイルム使用時にはおすすめできません。
・オートフォーカスセンサーでぶれを検知しているため暗いところやオートフォーカス（AF）の苦手な被写体（P.46）では正しく表示されないことがあります。

# リモコン(RC-300C)に関するご注意



◎リモコンは幼児の手の届かないところに置いてください。また、万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

◎リモコンは生活防水ではありません。ぬらさないようにご注意ください。

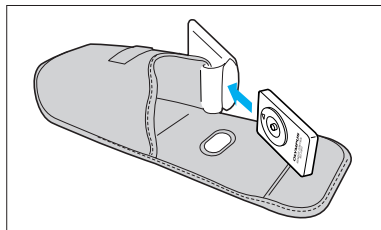
◎水中での使用はできません。

◎無理な力を加えないでください。

◎リモコンを分解したり、加熱・火中に投入することは危険ですので、絶対にしないでください。

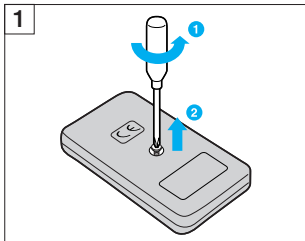
◎水洗いをしないでください。

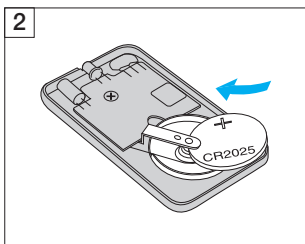
◎使用可能温度は、−10℃〜40℃です。

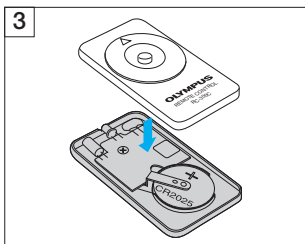
### リモコンをソフトケースに入れる場合

・ソフトケース内側、側面のリモコン収納袋を取り出し、図の向きに入れてください。
逆に入れるとボタンを押したままの状態となり、電池が消耗することがあります。

**ボタンを押してもカメラのセルフ/リモコンシグナルが点滅しない場合は電池(CR2025)を交換してください。**

### リモコンの電池交換のしかた

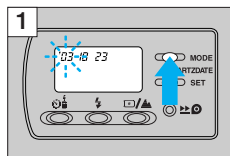
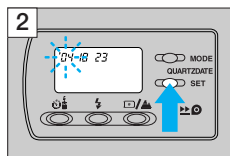
1

①リモコンを裏返し、裏面のネジを反時計方向に回しながら、取り出します。

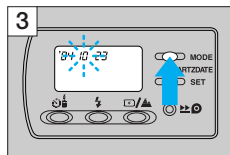
2

②リモコンの表面を上にし、表面のふたを開けます。
③電池の⊕面を上にして、板状と線状の金属接片の間に挟み込みます。

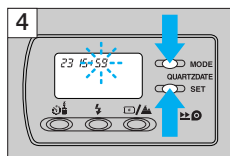
3

④表面のふたを載せ、リモコンを裏返し、ネジを時計方向に回して締めます。


さまざまな機能を使ってみましょう

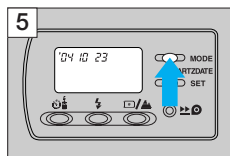
# 日付・時分の合わせかた

電池を入れた時には必ず日付・時分を合わせてください。

レンズバリアを開き、MODEボタンを押し続け年表示を点滅させます。

SETボタンを押して年表示を合わせます。

・1回押すと1進み、押し続けると早く進みます。合わせる数字が行きすぎた時は、そのまま押し続けていると戻ります。

もう一度、MODEボタンを押し、月表示を点滅させます。

・MODEボタンを押すごとに点滅箇所は年・月・日・時・分と変わります。

SETボタン、MODEボタンを押す操作を繰り返し、時・分まで合わせます。

確認

・分表示が点滅しています。

MODEボタンを押すと完了です。

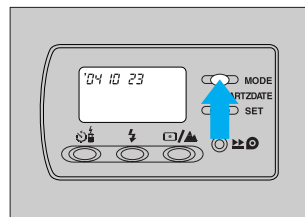
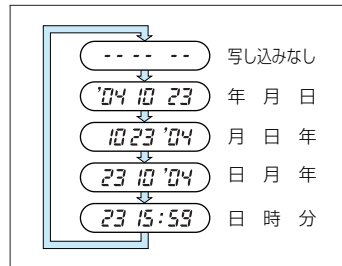
確認

・表示の点滅が終わり、年月日表示になります。



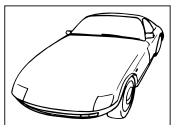
# 日付(クォーツデート)操作ボタンの使い方



MODEボタンを押して、写し込みたい表示を選びます。

レンズバリアを開き、MODEボタンを押すたびに、表示が図の順番に変わります。

・電源はカメラ本体の電池と共用です。
・カメラ本体の電池交換時には、必ず日付・時分を確認、修正してください。
・日付は画面の右下に写し込まれます。
・日付の写る位置に白・オレンジ・黄色などの明るい色がある時、日付が読み取りにくくなることがあります。
・規定枚数を超えて撮影したコマには日付が正常に写し込まれない場合があります。
・白黒フィルムには日付・時分は写りにくくなることがあります。

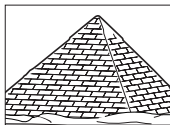
# オートフォーカス(AF)の苦手な被写体

このカメラは、ほとんどの被写体に対してオートフォーカスでピント合わせが可能ですが以下の①～⑥のような条件では、ファインダー横の緑ランプが点灯もしくは、早く点滅し、シャッターは切れますがピントが合っていない時があります。

下のようなものを撮りたい時は、スポットモード（P.36）を使用し、同じ距離にあるものでピントを合わせてから構図を決めて撮影してください。

①コントラストのない被写体

②縦線のない被写体

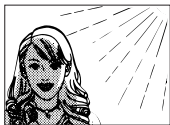
③画面の一部に極端に明るいものがある被写体

④遠いものと近いものが共存する被写体

⑤繰り返し模様の被写体

⑥強い逆光の被写体





# 電池に関するご注意

⚠ 警告　電池は正しく使いましょう。誤った使い方は液もれ・発熱・破損の原因となります。交換する時は、⊕⊖ の向きに注意して正しく入れてください。

⚠ 警告　電池をショートさせたり、分解や充電をしたり、火の中に入れると破裂・発火のおそれがあります。

⚠ 警告　電池は幼児の手の届かないところに置いてください。また、万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

◎電池は一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用する時は、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。

◎電池の ⊕⊖ 極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布で良く拭いてから使用してください。

◎長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では地域によって入手困難なことがあります。

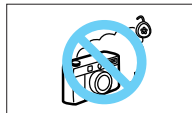
◎電池に記載されている注意事項を守ってください。

◎ご使用済みの電池は一般廃棄物として、各自治体の指示に従って処理してください。

◎カメラを長期間使わない時は、液もれの危険がありますので、電池をカメラから取り出して、20℃以下の湿度の低いところに保存してください。

# 取り扱い上のご注意



直射日光下の車の中や夏の海岸など、高温多湿の場所にカメラを放置しないでください。

戸棚や引き出しに使われているホルマリンや防虫剤のナフタリンから離して保管してください。

水分がついたら早めに乾いた布で水分を拭き取りましょう。特に塩分は禁物です。

カメラを清掃する時アルコールやシンナーなど、有機溶剤を使用しないでください。

テレビ・冷蔵庫などの電気製品の上や近くに置かないでください。

泥や砂をかぶらないようご注意ください。修理不可能になることがあります。

強い振動やショックを与えないでください。

ズームレンズに無理な力を加えないでください。

◎風通しのよいところに置いてください。湿気の多い時期にはビニール袋などに乾燥剤と一緒に入れておくと安全です。

◎使用可能温度は－10℃～＋40℃ですが、低温では電池性能の劣化によりカメラが作動しないことがあります。

◎寒い戸外から暖かい室内に入るなど、急激に温度が変わった時は、ビニール袋などに入れてカメラを室内の温度になじませてからご使用ください。

◎カメラ前面のAF測距部・レンズ・AE測光部・フラッシュなどを髪や手でふさがないでください。

◎長時間使用しないと、カビがはえたり、故障の原因になることがあります。時々シャッターを切るようにし、また使用前には作動点検されることをおすすめします。

◎飛行機をご利用されるときは、フィルムの感度にかかわらず未現像フィルムやフィルムの入ったカメラは、機内にお持込みください。預け入れ荷物に入れた場合、X線検査で感光してしまうことがあります。また、手荷物検査の際にもフィルムが入っている場合は、検査官に伝えてX線の照射を避けてください。

◎このカメラはマイクロ・コンピューターによって制御されています。マイクロ・コンピューターの特性としてきわめてまれにカメラが作動しなくなります。万一このような状態になった時は、電池をいったん取り出し、入れ直してカメラを作動させてください。また極端な高電界下では電子回路が動かなくなることがあります。このような時は影響がなくなるまで離れてお使いください。

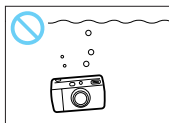
◎業務用または過酷な条件での使用はおすすめできません。


その他

# 生活防水について

このカメラは日常の生活防水機能を持ったカメラですが、水中カメラではありません。以下の例を参考に正しくご使用ください。

| 生活防水 | 種類：JIS 保護等級 4 相当（当社試験方法による）<br>意味：いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響のないもの |
|---|---|

水で洗わないでください。

水の中に落とさないでください。

水中撮影は出来ません。

◎撮影の時にはAF測距部、レンズに水がつかないようにご注意ください。（ピントが合わないことがあります）

◎水しぶきなどを浴びて水滴がついた場合は早めに乾いた布などで拭き取ってください。

◎電池ぶたや裏ぶたのゴムパッキングには強い力を加えたり、はがしたりしないようにしてください。

◎ゴムパッキングの劣化およびキズがついた時はオリンパス岡谷修理センターにご相談ください。
（部品交換は有料となります。）

裏ぶたや電池ぶたのゴムパッキングにゴミや砂が付着したまま使用しないでください。付着した時には浸水の原因になりますので、良く拭き取ってから閉めてください。





# Q&A

**Q：電池はどの位もちますか。**
A：リチウム電池（CR123AまたはDL123A）で約15本（24枚撮り、フラッシュ使用率50%その他当社試験条件による）の撮影ができます。フラッシュおよびズーム使用頻度が少ない場合は、さらに長持ちします。

**Q：フラッシュが熱くなるのですが。**
A：連続してフラッシュ撮影するとフラッシュ部が熱くなることがあります。少し休ませてからご使用ください。

**Q：赤外フィルムは使えますか。**
A：使えません。

**Q：オレンジ、緑ランプ両方が点滅しているのですが。**
A：フラッシュから指を離せば点滅は止まります。（P.22）

**Q：フィルターやフードは取り付けられますか。**
A：取り付けられません。

**Q：カメラの保管はどうすればよいのですか。**
A：カメラはホコリ、湿気、塩分を嫌います。よく拭き、乾燥させて保管してください。海辺で使ったあとは、真水で浸した布を固く絞って拭き取ると良いでしょう。防虫剤の使用は避けてください。

**Q：露出はいつ測定されるのですか。**
A：シャッターボタンを半押ししたときにピントと同時に測定され、半押ししている間固定されます。（P.19）

**Q：レンズが汚れてしまったのですが。**
A：レンズが汚れた時は、市販のレンズクリーナーとクリーニングペーパーで軽く拭いてください。

その他

## 操作上のトラブル

●カメラが動かない。

| 原　因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| ①レンズバリアが開いていない。 | ①レンズバリアを完全に開いてください。 | 22 |
| ②電池の向きが正しくない。 | ②電池を正しく入れ直してください。 | 17 |
| ③電池容量が十分でない。 | ③新しい電池を入れてください。 | 17 |
| ④寒さで電池の性能が一時的に低下した。 | ④カメラを保温しながら使用してください。 | 47 |
| ⑤撮り終わって巻き戻されたフィルムが入ったままになっている。 | ⑤フィルムを取り出してください。 | 27 |
| ⑥フィルムが正しく入っていない。 | ⑥フィルムをもう一度入れ直してください。 | 20 |
| ⑦フラッシュを手で押さえている。 | ⑦フラッシュから手を離してください。 | 22 |

●ファインダーがはっきり見えない。

| 原　因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| ①ファインダーの視度が合ってない。 | ①視度を調節してください。 | 13 |

●液晶パネルの表示が突然消えてしまった。

| 原　因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| ①液晶パネルの表示は何も操作をしないと4分30秒で消灯します。 | ①レンズバリアをいったん閉めて再度開くか、ズームレバーを操作すると液晶パネルの表示が点灯します。なお、約4時間たつと自動的にOFF状態になりますが、しばらく撮影しない時はできるだけレンズバリアを閉じてください。 | 22 |

●緑ランプが点滅して、シャッターが切れない。

| 原　因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| ①撮りたい被写体からの距離が近すぎる。 | ①撮影距離範囲で撮影してください。 | 25 |

●オレンジランプが点滅してシャッターが切れない。

| 原　因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| ①フラッシュ充電が完了していない。 | ①一度シャッターボタンから指を離し、充電が完了するまで数秒待ってから撮影してください。 | 29 |

●暗いのにフラッシュが発光しない。

| 原　因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| ①フラッシュモードが発光停止モードになっている。 | ①発光停止モード以外のモードにしてください。 | 28 |
| ②高感度フィルムを使用している。 | ②フラッシュのモードを強制発光モードにセットしてください。 | 28.32 |


その他

## 写真のできが良くない場合

●ピントの合っていない写真ができた。

| 原　　因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| ①シャッターボタンを押す時にカメラが動いてしまった。 | ①カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押してください。 | 18 |
| ②ピントを合わせたいものがオートフォーカスマークからはずれていた。 | ②ピントを合わせたいものをオートフォーカスマーク内に持ってくるか、スポットモードを使ってください。 | 23<br>36 |
| ③レンズやAF測距部が汚れていた。 | ③レンズ、AF測距部をきれいにしてください。 | 8 |
| ④AF測距部を指などでおおってしまった。 | ④カメラを正しく構えてAF測距部を指などでおおわないようにしてください。 | 18 |
| ⑤最短撮影距離よりも近くで撮影してしまった。 | ⑤最近接撮影距離まで離れて撮影してください。 | 25 |
| ⑥セルフタイマー撮影でカメラの直前に立ってシャッターボタンを押した。 | ⑥カメラの前に立たず、ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを押してください。 | 39 |
| ⑦ピントの合いにくい被写体を撮影した。 | ⑦スポットモードを使用し、被写体と等距離にあるものでピントを合わせて撮影してください。 | 36<br>46 |

●できあがった写真が暗い。

| 原　　因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| ①フラッシュを指などでおおってしまった。 | ①カメラを正しく構え、フラッシュをおおわないように気をつけてください。 | 18 |
| ②撮りたいものがフラッシュ撮影可能範囲よりも遠くにあった。 | ②フラッシュ撮影可能範囲内で撮影してください。 | 29 |
| ③フラッシュモードが発光停止モードになっていた。 | ③フラッシュのモードを確認してから撮影してください。 | 28 |

●日付が写し込まれていない(写り込みがうすい)。

| 原　　因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| ①モードが写し込みなし「–– –– ––」になっていた。 | ①写し込みたいモードをセットしてください。 | 45 |
| ②日付の写る位置に、白・オレンジ・黄色などの明るい色があった。 | ②日付の写る位置になるべく明るいものがこないように構図を決めてください。 | 45 |
| ③モノクロフィルムで撮影した。 | ③モノクロフィルムでは日付が写りにくくなることがあります。 | 45 |

●室内で写した写真の色がおかしい。

| 原　　因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| ①照明の色が影響した。 | ①フラッシュのモードを強制発光モードにセットして撮影してください。 | 28.32 |

●被写体がぶれて写っている。

| 原　　因 | こうしましょう | 参照ページ |
|---|---|---|
| ①カメラぶれが起きた。 | ①シャッタースピードが長くなる時は三脚などでカメラを固定して撮影してください。<br>または撮影前に手ぶれ警告モードで確認してください。 | 31.33<br>34.37<br>41 |
| ②被写体が動いた。 | ②シャッター作動中は被写体が動かないようにご注意ください。 | 31.33<br>34 |



その他

# アフターサービスについて

◎保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、直ちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上大切に保管してください。

◎本製品に関するお問い合わせはオリンパスカスタマーサポートセンターに、修理に関するお問い合わせはオリンパス岡谷修理センターにご相談ください。

◎万一故障した場合には、ご購入された販売店にお持込みいただくか、直接オリンパス岡谷修理センターにお送りください。
使用説明書などに従ったお取り扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
修理品をご送付の場合は、修理箇所を指示した書面を同封し、十分な梱包でお送りください。
また控えが残るよう、宅配便や書留小包のご利用をお願いいたします。

◎保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。

◎当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社で保有しています。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。
なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店またはオリンパス岡谷修理センターにお問い合わせください。

◎本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の損失など）については補償しかねます。
また、保証期間の内外を問わず、修理時の運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。



# オリンパスカメラクラブのご案内



オリンパスカメラクラブでは、オリンパスカメラおよびレンズ愛用者の組織です。
オリンパスカメラクラブに入会しますと

1. 会報誌オリンパスフォトグラフィをお届けします。
2. カメラクラブ主催の撮影会、写真教室などに参加できます。またオリンパスが実施する催物に優先的に参加できます。
3. オリンパスフォトグラフィの誌上コンテスト等、作品を寄稿し発表することができます。
4. 作品通信指導などを受けることができます。
5. カメラクラブの支部活動に参加することができます。
6. ご愛用カメラ・レンズの修理料金が特別割引になります。（ただし、オリンパス岡谷修理センターに送付（送料本人負担）いただいた場合のみ有効です。）

オリンパスカメラクラブに入会するには、オリンパスカメラおよびレンズご愛用者はどなたでも入会することができます。
入会のお申込みは、カメラクラブ専用申込票（預金口座振替書）をご利用ください。
また、郵便振込（振替口座番号 東京00160-9-18574 ズイコーニューズ編集室宛）もご利用できます。お申込みは常時受付けております。

入会金（申込金、新入会時のみ）……………800円
会費（購読費）1年分………………………4,200円
計 5,000円

オリンパスカメラクラブの所在地（日曜・祝日および年末年始定休）
オリンパスカメラクラブ／ズイコーニューズ編集室
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1丁目3番1号 小川町三井ビル
電話 03（3292）1933 営業時間10：00〜18：00

2003年 7 月1日現在

# 主な仕様



**形　　式**　38mm～120mm ズームレンズ内蔵35mm全自動オートフォーカスレンズシャッターカメラ
**使用フィルム**　35mmフィルム（JIS J135パトローネ入り、DXコード付フィルム）
**画面サイズ**　24mm×36mm
**レ ン ズ**　オリンパスレンズ38mm～120mm F5.6～F12.6/7群8枚
**シャッター**　プログラム式電子シャッター
**ファインダー**　実像式ズームファインダー（オートフォーカスマーク、近距離補正マーク、緑ランプ（AF合焦表示）、オレンジランプ（フラッシュ発光予告）、視度調節付）
**ピント調節**　パッシブ方式マルチオートフォーカス、フォーカスロック可能
ピント調節範囲　0.6m～∞
**露出調整**　プログラム式電子シャッターによる自動露出調節（3分割測光）
自動調整範囲
WIDE：EV3.0（F5.6・4秒）～EV16（F10.2・1/630秒）
TELE：EV5.3（F12.6・4秒）～EV17（F18・1/410秒）
**コマ数計**　順算式液晶パネル表示
**セルフタイマー**　電子セルフタイマー約12秒
**リモコン**　赤外光式リモコン（ディレイ時間約3秒）
**フィルム感度**　自動設定（DXコード付フィルムISO50・100・200・400・800・1600・3200、これ以外の中間値は低感度側に自動設定。DX以外のフィルム、ISO50未満のフィルムはISO100にセット）
**フィルム装填**　オートローディング方式（自動空送り機構付）
**フィルム巻き上げ**　自動巻き上げ方式
**フィルム巻き戻し**　自動巻き戻し方式（フィルムエンドで自動的に巻き戻しスタート、巻き戻し自動停止機構付）巻き戻しボタンによる途中巻き戻し可能
**フラッシュ**　ポップアップフラッシュ　充電時間約0.5～5.5秒（常温時、新品電池使用）
フラッシュ撮影範囲
WIDE：0.6m～4.5m（ISO100ネガカラー）
TELE：0.6m～2.0m（ISO100ネガカラー）
WIDE：0.6m～9.0m（ISO400ネガカラー）
TELE：0.6m～4.0m（ISO400ネガカラー）

**フラッシュモード**　オート発光（低輝度時、逆光時、蛍光灯下自動発光）
（赤目軽減発光、他は“オート発光”と同じ）
（発光停止、シャッタースピード最長2秒）
（強制発光）
（夜景、シャッタースピード最長4秒）
（赤目軽減夜景、シャッタースピード最長4秒）
**撮影モード**　オート
（スポット）
（遠景）
**その他のモード**　（セルフタイマー）
（リモコン）
（手ぶれ警告）
**バッテリーチェック**　液晶パネルによる表示
**電　　源**　3Vリチウム電池（CR123AまたはDL123A）1本（交換可能）
**大 き さ**　幅116mm×高さ60.5mm×厚さ42mm（グリップ等の突起部含まず）
**質　　量**　205g（電池別）
**生活防水**　種類：JIS保護等級4相当（当社試験方法による）
意味：いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響のないもの。

## ●クォーツデートの主な仕様

**データ写し込み方法**　フィルム表面からの写し込み式
**写し込みデータの種類**　①なし ②年月日 ③月日年 ④日月年 ⑤日時分
**写し込みデータの外部表示**　液晶パネル表示
**自動カレンダー機能**　2035年まで自動修正
**フィルム種類別のセット**　自動設定
**電　　源**　カメラ本体と共用

## ●リモコンの仕様

**赤外線リモコン**
**電池交換式**　（CR2025 1個使用）
**電池寿命**　約5年
**使用回数**　約2万回
**作動範囲**　約5m
**大 き さ**　33mm×56mm×7mm
**質　　量**　11g（電池別）

※外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、予めご了承ください。


その他